

さらなる技術の研鑽に励み、 豊かな社会作りに貢献します



THK株式会社 代表取締役社長

高橋 隆博

● 熊本地震で被災された皆様へ

本年4月に発生した熊本地震では多くの尊い命が犠牲となりました。亡くなられた方やそのご家族に対し、心からお悔やみを申し上げます。また未だに避難生活を余儀なくされている皆様に対し、深くお見舞いを申し上げます。

その中で、東日本大震災の際にも感じたことですが、大きな被害を受けながらも秩序を保ち、弱者を優先的に助け、冷静に行動されている皆様の姿や全国各地から集まってこられたボランティアの方々の献身的な姿に感動しました。このような事態にあっても、まずは他人のことを気遣える日本人の暖かい心に尊敬の念を抱きます。被災地は必ずや復興を遂げられ、さらなる成長をされるであろうと確信しております。

● 2015年度を振り返って

さて、2015年度は、中国をはじめとする新興国で経済成長が鈍化した一方、欧米を中心とした先進国が牽引役となり、世界経済は緩やかに回復基調を辿りました。日本も緩やかな回復が見られたものの、輸出や生産では弱い動きが見られました。

このような環境下で、当社は地理的な領域拡大を目指した「グローバル展開」と用途的な領域拡大を目指した「新規分野への展開」を成長戦略の柱とし、事業展開を進めてきました。

「グローバル展開」では、先進国はもちろんのこと、中国をはじめとした新興国でのFA(Factory Automation)の進展等に合わせた販売網の拡充に努めてきました。

「新規分野への展開」では、免震・制震装置、再生可能エネルギー、航空機、医療機器、ロボット等の

分野で市場の開拓ならびに拡販に向けた新製品の開発に努めました。そのような中、本年4月には免震構造にて新築した豊田支店内に「中部テクニカルサポート」を開設し、双腕ロボットNEXTAGE®を常設展示しております。ここでは、ロボットそのものや部品等の販売および技術支援をワンストップで提供できるようにしております。

当社は「より良い製品を、適切な価格で、必要なときに、必要なところで、必要な量だけ欲しい」というお客様の要求に即座にお応えすべく、日本、米州、欧州、アジアの各極において現地で生産して販売する「需要地における製販一体体制の構築」を積極的に進めております。営業面では、中長期的な需要の増加が見込まれる中国、インド、アセアン地域で販売網の拡充を図りました。生産面では各地域において自動化の推進やロボットの導入等により、生産性の向上に努めました。中国では大連THKを移転・拡張し、ボールねじの生産能力の増強を図りました。

さらに、輸送機器事業の拡大を目的として、2015年8月にアメリカの自動車部品会社であるTRW Automotive Inc. (現在はZF Friedrichshafen AGのグループ企業)から欧州および北米のL&S(リンケージ アンド サスペンション)事業を譲り受け、アメリカ、カナダ、ドイツ、チェコの4か国において、計6つの工場をグループに加えました。

45周年を迎えて

当社は本年4月10日で創立45周年を迎えました。これは、日頃お引き立てをいただいているお客様、ご支援をいただいている取引先、株主の皆様、そして日々弛まぬ努力を重ねている従業員のおか

げであると深く感謝申し上げます。当社は、「世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する」という経営理念のもと、創造開発型企業として独創的な製品開発や独自の生産技術等を元に企業価値の増大を目指し、ボールスプライン、LMガイドといった画期的な直動製品を市場に投入してきました。今日ではこれらの技術を応用し、ロボット、医療機器、免震・制震装置、再生可能エネルギー分野でもご利用いただいております。お客様がどんなことにお困りなのか、我々を取り巻く市場環境が何を欲しているのか、さらにはクレームからも様々な情報を吸い上げ、お客様自身も気付いておられないニーズに対し、適切な提案をして、お客様とともに成長していきたいと考えております。

そのような中、既に申し上げました2つの成長戦略に加え、IoTをはじめとする技術の発展に即応すべく新たな成長戦略として「ビジネススタイルの変革」を追加しました。IoT、クラウド、AI、ロボットを徹底的に活用することにより、「どこで」「何を」「誰に」「どのように」販売・生産していくのかといった、ビジネスの進め方や仕組みを変革させ、事業領域のさらなる拡大を図ってまいります。

当社は21世紀には機械要素部品メーカーとして世界のトップ10に数えられる企業に成長し、その地位を固めようという、「グローバル10 21」との大きな目標を掲げております。この目標の達成に向けて3つの成長戦略を着実に実行するとともに、豊かな社会作りに邁進いたします。

今回のCSRレポートでは、「本業を通じた社会貢献」や創造開発型企業としての「新規分野への展開」の例を多数掲載しております。是非ともご覧いただきたくお願い申し上げます。